

上関未来通信

豊かな町を原子力発電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.32
正月号
通算346号

発行 令和2年1月20日



上関町まちづくり連絡協議会

代表幹事 藤井 快宏

令和2年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また平素より「上関町まちづくり連絡協議会」の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、様々な出来事が世間を賑わした年でした。消費税の引き上げ、参議院選挙での自民党の大勝、吉野彰氏のノーベル賞受賞、そしてラグビーワールド

カップでの日本の活躍は記憶に新しいところです。中でも最も大きな出来事として歴史に刻まれるのが、平成の天皇退位による皇位継承に伴い、元号が「令和」に改定されたことではないでしょうか。即位の礼では多くの国民が新たな時代の到来を祝福しました。

上関町においては、上関町風力発電所が完成。4月から営業運転が始まっております。売電による利益は地域活性化のために活用されます。また、上関原子力発電所については、7月26日、山口県から公有水面埋立免許の延長許可（2023年1月まで）がなされています。12月にスペインで開催されたCOP25（気候変動枠組条約第25回締約国会議）では、深刻な地球温暖化問題が議論されましたが、原子力発電所の稼働は二酸化炭素削減対策として有効な手段であることは間違いありません。上関町でも速やかに安全・安心につながる調査を実施し、一日も早い立地を望んでいます。

当会は、今年も講演会や勉強会等を通じて原子力発電の理解活動を粘り強く行うとともに、「上関原子力発電所の建設・運転を契機とした活力ある豊かな町づくり」に向けた活動を続けてまいります。引き続き、変わらぬご支援をお願いいたします。

最後に、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

令和二年一月吉日



頌春

2019年の出来事

- 1/20 上関未来通信29号（正月号）発行
- 4/8～10 青壮協が日本原子力産業協会年次大会・JAIF地域ネットワーク意見交換会に参加
- 5/19 青壮協が中ノ浦海岸清掃活動を実施
- 5/28 町連協幹事会
- 6/16 エネルギー勉強会を開催（講師：渥美寿雄氏）
- 7/25 上関未来通信30号発行
- 9/26 町連協幹事会
- 10/26 原子力の日
のぼり設置・街宣活動
- 10/27 エネルギー講演会（講師：澤田哲生氏）
- 11/7・8 青壮協がJAIF地域ネットワーク見学会（柏崎）に参加
- 11/11～13 町連協福島第一、女川原子力発電所視察
- 11/25 上関未来通信31号発行

福島第一・女川原子力発電所の視察 ～復興・廃炉、再稼働に向けて～

上関町まちづくり連絡協議会は、11月11日から13日にかけて、東京電力（株）福島第一原子力発電所（本文中では「福島第一」と表記）・東北電力（株）女川原子力発電所（本文中では「女川」と表記）について視察団を派遣しました。震災から8年が経過した現地の最新状況を間近に視察し、見識を深めました。

【視察行程】

11月11日／Jヴィレッジ・12日／福島第一原子力発電所・13日／女川原子力発電所



【視察団】（順不同）
柏田恵子 綿本 稔
中嶋伸夫 鼓 勝行
辻 正義 木村勇一
米中エミ子 山谷良数
【町役場 総合企画課】
橋本正和 今田浩輔

昨年5月28日の幹事会で、幹事のみなさんから「福島第一の現状を視察したい」という強い要望がありました。町役場総合企画課に何か良い方法はないかと相談したところ「福島とともに、女川原子力発電所も視察してはどうですか」と提案され、町連協の幹事役員から希望者を募り、今回の実施となりました。

スポーツを通じた復興へ ～Jヴィレッジ～

11日、福島第一の前に訪ねたJヴィレッジは、当初のスポーツを中心としたコミュニティ施設として利用されていた場所ですが、福島第一事故の際、特殊車両の待機所や作業員の除染場所など復旧作業の前線拠点として大きな役割を果たしました。除染・廃炉の作業も進み、再度スタジアムやホテル等も整備され、昨年7月、復興に向けて再始動しました。

一歩一歩 廃炉へ ～福島第一原子力発電所～

福島第一では、廃炉資料館で事故概要・廃炉措置の進捗状況の説明を受けた後、専用バスに乗り換えて福島第一に移動し現地を視察しました。

【主な説明内容】

●震災当日、運転中だった1号機3号機は、地震を感じし全て緊急停止し、炉心の冷却を開始。しかし、50分後の高さ14mを超える津波により非常用ディーゼル発電機や冷却用ポンプなどの「冷やす」機能を失ったため、燃料が水面から露出し炉心を損傷し、原子炉建屋に水素爆発が発生した。

4号機は定期検査中であつたが、3号機と排気筒を共有していたため水素が流入し爆発に至った。

●1号機・4号機は、現在冷温停止状態を継続し、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業が進められている。4号機は既に取り出し完了。溶融した燃料の塊が存在する1号機・3号機については、ロボットを活用して堆積物の情報収集等を行っている。

●原子炉建屋への地下水や雨水の流入により汚染水が増え続ける問題は、地下水パイパス・サブドレン（井戸）での地下水をくみ上げ、凍土方式の遮水壁等で流入を防ぐ。

また、汚染水は放射性物質を取り除いた後に再び原子炉に注水し、継続的に冷却水として利用している。利用されない汚染水は貯蔵タンク（トリチウムを含む）に保管しているが、現時点で処分方法は決まっていない。

●福島第一では平日1日あたり約3700人が働いており、地元雇用率は約60%。敷地内の除染も進み、現在では大部分のエリアで一般服での作業が可能となっている。作業員の月平均被ばく線量は、事故当初の平均32mSvから0.25mSvに大幅に減少している。

2015年には大型休憩所が運開。コンビニもオープンし、労働環境は大きく改善されている。

最後に処理済の汚染水の海洋放出に関する科学的な理解や社会的な受容醸成の必要性などについて意見を交わしました。

福島第一の廃炉には30～40年かかる見込みとのこと。まだまだ途上ではあるものの、一歩一歩着実に取り組みが進められているとの印象を強くしました。

さらなる安全を確保し再稼働へ ～女川原子力発電所～

女川は震源地に一番近い発電所で13mの津波が襲いました。しかし、過去の地震を徹底的に調査し、発電所敷地高を最大予測にさらに余裕を持たせ14.8mとしていたこと、震災前に数々の耐震工事を行っていたことから、3基の原子炉全てが冷温停止することができたとの説明。また、震災当時、周辺から避難してきた住民364名を3ヵ月にわたり受け入れ、地域とともに困難を乗り越えてきた



との説明には感銘を受けました。現在、再稼働を目指してこれまでの対策に加えて海拔29mの防潮堤をはじめ様々な地震・津波対策の工事が進められるなど、さらなる安全性の向上に不断の努力を重ねている姿を見ることが出来ました。

視察を今後の活動の糧に

視察を終え、事故の悲惨さを思い起こすとともに、改めて現場・現物を見聞することの大切さを実感しました。復興・廃炉措置、再稼働とそれぞれに課題はありますが、困難な課題に立ち向かう姿勢に共感を得ることが出来ました。

●昨年は、勉強会や講演会を通じ、皆さまに原子力の必要性、正しい知識をお伝えする事が出来たと思います。●この新年号では、視察を通して福島第一の復興や女川発電所の知られていない一面を間近で見感じた事をお伝えしました。●現在、上関原子力発電所の建設は進んでいませんが、昨年は県による埋立期間の延長許可、中国電力による追加地質調査の発表など動きがありました。●柏原町長が2期連続で無投票で当選され、厳しい上関の現状において柏原町長の実績が原子力推進・反対問わず町民に評価されたものだと思えます。この結果からみても町民の力を合わせて町づくりを考え取り組んで行こうという強い気持ちの伝わってきます。●多くの町民の願いである「安心・安全」な原子力発電所建設による豊かな町づくりを実現することが大切だと改めて思いました。●本年もどうぞよろしく願います。（K）

後記